

平成29年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input type="checkbox"/> 共同研究推進 <input checked="" type="checkbox"/> 若手教員研究支援 <input type="checkbox"/> 個人研究支援 <input type="checkbox"/> 研究推進重点設備 <input type="checkbox"/> 研究推進設備修繕
プロジェクトの名称	学校における児童虐待対応に係わる研修教材の作成に関する研究
報告者氏名・所属・職名	中村直樹・函館校・講師
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	中村直樹・函館校・講師
研究内容及び成果の概要 <p>学校は、児童虐待を予防、発見、通告するうえで重要な役割を担っている。特に、平成28年の児童福祉法改正によって、児童虐待について発生予防から自立支援まで一連の対策のさらなる強化が図られるなか、学校は児童虐待の発生予防のために市町村への情報提供、ならびに児童虐待発生時においては、児童相談所に対して被虐待児童等に関する資料等の提供がこれまで以上に求められるようになった。このように学校は児童虐待に関するレポーター（報告者）として、自ら適切な情報を積極的に発信していく役割が与えられているといえる。そして、その役割を実際に果たしていくためには、児童虐待を発見あるいは疑い、情報の収集・記録、市町村児童相談担当部署あるいは児童相談所への通告・相談などに関する知識やスキルが必要である。</p> <p>そこで児童虐待に対応する教職員の意識を喚起し、資質能力の向上を図ることを目的として、本研究においては教員用研修教材の検討・開発を行い、児童虐待対応のための教員研修の一層の充実を目指すこととした。</p> <p>成果として、今年度は学术论文1本を発表した（来年度も本経費を活用した学术论文を公表する予定である）。この成果を活用して、平成30年度中に研修教材を作成する。なお、研修教材は、筆者（中村）が開講する平成30年度の教員免許状更新講習会（「学校における児童虐待の対応」）において活用する他、求めがあれば各学校に赴き、学校における児童虐待対応の研修で活用したいと考えている。</p>	
成果の公表の状況 <p>【著書】</p> <p>【学术论文】 中村直樹「被虐待児の回復・成長のためのパースペクティブーエコロジカル・ソーシャルワークとレジリエンス」『人文論究』87号、2018年、83-90.</p>	
教育現場で活用可能な分野・教材等	
配布又はダウンロード可能な資料	
問合わせ先	代表者：中村直樹 電 話： FAX ： mail : nakamura.naoki@h.hokkyodai.ac.jp